

## 2017 年度 JICA 地球ひろば教師海外研修(教育行政担当者コース) 業務展望レポート

研修国 : ガーナ共和国			
日程 : 2017 11 月 18 日(土) ~ 26 日(日)			
氏名	田島 孝志	所属名	埼玉県立総合教育センター
		職名	主任指導主事

### [1]国際理解教育の必要性や意義について研修を通して感じられたことや考えが変わったことがあればご記入願います。

#### 《国際理解教育に対する考え方の変化》

国際理解教育については、だれもが平和で公正な世界を願っているが、私たちの住む地球は、戦争、貧困、開発、差別、人権、環境問題など、地球的規模の課題に対し、①世界の現状を「知る」→②課題に「気づき考える」→③自分のできることを「実行する」というプロセスで学習に取り組む教育のことであるとの認識はあった。しかし教科指導、学力向上等の現実的な課題に対する意識は高いものの、国際理解教育に対する重要性を実感として考えることがなかったのが現状であった。今回、ガーナ共和国の視察に参加し、貧富の格差や不十分な教育の現実を目の当たりにし、また、そこでガーナのために努力している日本人を見たとき、グローバル化の進むこれからの国際社会に生きる子供たちにとって、世界の現実を知り、国際的な視野をはぐくみ、それぞれの立場で国際的な課題解決のために行動するという、生き方・考え方のベースを築くため、実感を伴った国際理解の推進の重要性を深くかみしめるようになった。

#### 《国際理解教育に対し、研修を通して感じたこと》

事前研修会の中で、国際理解教育の推進について話題が広がったことがあったが、その時「相手を知り、子供が感覚的な部分で受け入れること」が必要なのではないかという話をした。実際に研修に行き感じたことの1点目は、「実感を伴った知」の大切さを強く感じた。文献やインターネットで文字上はなんでも調べられる時代であり、知識上は日本の教室にいても十分な知識を身に付けることができるが、他人事で終わってしまう例が多いのではないか。子供たちに、海外とのつながりを感じさせ、「どうすればよいか」「どうにかしたい」と思わせる「実感を伴った知」を体験させる学習の重要性を強く感じた。今の時代だからこそできる「インターネットテレビ会議」、現実を見てきた「協力隊員とのディスカッション」など、より身近に感じられる工夫をすべきであろうと考えている。

2点目は教員こそ多く海外の現状を知るために、足を運ぶべきではないかと感じた。JICA等の研修の機会を生かすべきである。そして教師が実際に見聞きしたことを子供たちに熱く語り伝えるべきだと感じている。

3点目は英語を基本としたコミュニケーション能力育成の重要性である。現地でお会いした協力隊員は高いコミュニケーション能力を持っていた。英語力は、子供たちが「何かしたい」「つながりたい」と思ったときに、背中を押してくれる大きな武器である。グローバル化していくこれからの社会を生き抜くためにも、英語を基本としたコミュニケーション能力の育成が重要であると感じている。

## 2017 年度 JICA 地球ひろば教師海外研修(教育行政担当者コース) 業務展望レポート

### [2]今後の業務における開発教育の推進について

業務における開発教育の推進	左記に対する具体的な工夫(JICA の活用等)
年次研修における国際理解教育に関する研修内容の充実	<p>○JICA 埼玉デスクの連携強化 初任者研修全体研修で JICA 現職教員研修参加者の発表に加え、協力隊員 OB の講師招聘を実施</p> <p>5 年経験者研修における JICA 埼玉デスクによる教員研修紹介を研修内への位置付けを検討</p> <p>年次研修の教科研修(総合的な学習の時間)の指導案、実施計画の作成演習等において使用できる、ガーナ研修資料を提供。</p>
国際理解教育推進に向けた啓発	<p>○サテライト展示へのガーナ研修報告コーナーの設置 JICA サテライト展示コーナーにガーナ研修報告コーナーを設置し、啓発展示を行う</p> <p>○所内掲示板を活用したガーナ研修報告(ガーナトピック)の掲示 教科指導の指導主事(理科、家庭科ほか)との連携を図り、教科専門棟へのガーナ関連(植物、食事)などの掲示物作成展示 廊下などの共用の掲示板にはガーナ研修で得たトピックなどを掲示し、研修場者への啓発を行う。</p> <p>○所員研修会での報告 センター所員への研修会(H30.1.20 実施予定)にて、研修の報告会を行い、全所員に報告書の配布により所員への啓発を行う</p>
総合的な学習の時間を活用した国際理解教育の充実	<p>総合的な学習の時間に「国際理解教育」を位置づけ、以下の取組を実施する</p> <p>○JICA 地球広場、JICA 埼玉デスクとの連携 JICA との連携を図り、協力隊員の活動や協力隊員との連絡を可能にして、生の教材を活用していく</p> <p>○協力隊員 OB の活用 総合的な学習の時間に講演会の実施や、キャリア教育においても「講演会」等を行い、国際理解、世界的な視野の育成を推進していく。</p>

## 2017 年度 JICA 地球ひろば教師海外研修(教育行政担当者コース) 業務展望レポート

**[3]特に印象に残った視察・訪問先、もしくは本研修の目的である以下の内容の理解につながった視察・訪問先を3つ挙げ、その内容や理由等につき、ご記入願います。**

視察・訪問先	印象に残った内容・所感等
<p>イースタン州アセセワ アッパーマニャ・クロボ郡の学校視察</p> 	<p>屈託のない笑顔の子供たちに迎えられ視察が始まった。学校運営委員会との顔合わせ後、授業参観を行う。教員の一方的な講義形式の授業が目立ち、また、鞭の使用が参加者から話題になる。旧態依然とした授業様態に今後の支援の必要性を感じた。学校運営協議会による住民総会の様子を見学することができた。多くの住民が参加し、学校に対する意識の高さ、我が子の教育に対する学校への期待の大きさを知る。施設面の改善が主な活動のようであるが、学校の経営に対する意見要望もしているとの説明があった。今日本では学校運営協議会(コミュニティールール)の導入が叫ばれているが、今回の視察では学校がコミュニティーの要望により設立できることなど学校の自然発生的な、学校の原点を見ることができた。経済的な発展に伴う、地域コミュニティー崩壊が危惧される中、失われていった日本教育のあり方について考直す、刺激的な視察となった。</p>
<p>イースタン州アスオジャマン JICA ボランティア活動視察</p> 	<p>牧野田青年海外協力隊員が指導している学校を訪問。牧野田隊員のコンデンサーの授業を参観。授業目的、課題の提示、生徒による予想をもとにした課題解決的学習を実践し、授業スタイルの普及に努めている姿を見た。授業スタイルのすばらしさは現地教員にも理解はされている。しかし実践につながらない要因が教員の生活レベルに起因するなど、発展途上国における教育支援の難しさの現実を見た。前日にも話題に上がった授業における鞭の使用について、学校の関係者との懇談で話題に上がったが、教師による鞭の使用は禁止されているとの説明を受けた。鞭の使用はイギリス統治下における習慣が残っているとの話もあり、当然ながら国の教育にはその国の歴史が色濃く影を落としていること、そしてその現状を踏まえて行う授業改善への支援の難しさも感じる事ができた。</p>
<p>セントラル州エルミナ城</p> 	<p>奴隷売買という負の世界遺産として有名なエルミナ城を視察。奴隷貿易の歴史について理解を深めることができた。女性や男性が収容されていた部屋に入り、鎖につながれたまま飲食排泄をしなければならない過酷な状況下にあったことなどの説明を聞くと悲惨な状況に胸が痛くなった。また、ガイドの方の「奴隷売買は過去のこと、白人を恨んではない」といった言葉に感銘を受けるとともに、ガーナ人自身が奴隷売買に関与していたという複雑な思いを感じる事ができた。エルミナ城に残された負の遺産を後世にしっかり語り継いでいくことは我々の責務であると感じた。また、グローバル化の進む日本、ましてや 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを迎える日本の学校において、人権教育、国際理解の立場からも、子供たちに伝えるべきであると思っている。</p>

### [4]研修参加の意義

- ・先進国以外の国の教育、経済、インフラなどを自分の目で見ることにより、日本を見つめなおす視点を数多く持つことができる。
- ・日本の開発援助の状況について、支援を受ける国側の視点で見ることができるとともに、支援の在り方について考える機会を得ることができる。

## 2017 年度 JICA 地球ひろば教師海外研修(教育行政担当者コース) 業務展望レポート

- ・海外で活躍している協力隊員に会い、支援への思いを聞き、支援について意見交換することで、協力隊員への尊敬の念を感じ、多くの刺激を受けることで国際理解教育を推進していくことの大切さを知り、推進への意欲付けとなる。
- ・実際に見て、聞いて、体験することで、うわべの知識ではなく、感じた思いで国際理解教育の推進に取り組むことができる。
- ・子供たちの教育、教育行政に携わる者として、今までの人生観、社会観を大いに揺さぶられ、大きな成長ができる。

### [5]研修に参加して得られたもの

ガーナ共和国の教育を中心に視察を行い、日本の教育環境、制度等のすばらしさを改めて実感することができた。日本という国の教育に携わる者としては、現状以上の優れた教育を地域社会に提供できるのではないかと思うようになった。

視察でガーナの学校運営委員会に接し、学校と地域保護者とが繋がることのすばらしさ、意義、日本の現状における必要性を感じられたことは、この後、学校運営協議会設置の推進や学校経営を行う立場になったとき必要となる、学校運営協議会に対しての考え方のベースを得られたことは大きい。

さらに協力隊の方々の取組に触れることで、世界で活躍している人たちに誇りに思うことができるようになり、国際協力や国際理解教育への理解が深められたことは何より大きい収穫である。グローバル社会の中でたくましく生きてゆくことのできる子供たちを育てていくという、学習指導要領にもある理念を実感として得られたいということは大きな収穫である。

最後に、日本にも外国人差別が13の人権問題(課題)の一つとされている。今回黒人の奴隷貿易の舞台を視察し、様々な話を聞き、人類の負の遺産、負の歴史を後世への戒めとして伝えなければならないという思いに駆られるとともに、外国の方に対する、特に黒人の人に対する思いが劇的に変化した。正しい歴史観に立った人権教育の重要性を得られたことは大きなことであった。

### [6]所属機関における情報共有等について

平成30年1月22日 埼玉県立総合教育センター所員研修会にて研修報告を実施した。

- 【参加所員数】 約50名
- 【実施時間】 15:00~16:00
- 【報告方法】 パワーポイントを活用
- 【報告内容】
  - ・ガーナの概要について
  - ・ガーナ教育制度について
  - ・各視察先報告
  - ・まとめ

### [7]その他所感

今回 JICA 地球ひろば教師海外研修(教育行政担当者コース)に参加させていただいたことは、私にとってかけがえのない経験となった。私個人では、小さなことしかできないかもしれないが、今回の経験を、機会を見つけては多くの人に伝えていきたいと考えている。現職教員の派遣制度もあるので、若い先生方に大いに参加していただき、人間として、教員として、視野を広げ、日本の教育を見直す機会を作ってほしいと思う。また、海外で活躍している人たちとつながり、大いに刺激を受けてほしいと感じている。

また、ガーナ視察をして、都市部と周辺部の発達の格差や、表現は適切ではないかもしれないが、あばら家に住みインフラの整備もままならない地方でも、スマホなどインターネットが入ってきているアンバランスな発展状況を見るにつけ、今後の発展に大きな歪みが出るのではないかという思いにもかられた。またこうしたアンバランスさを多く包含しているのが現在の世界なのかと思うと、これからの発展途上への支援の難しさを感じざるを得ない。また国際理解教育を行うにも、日本からの視点だけによる教育は危険性をはらむことになり、相手への尊敬を基本とした、客観的なしつかりとした知識をもとに教育を行わなければならないと思った。